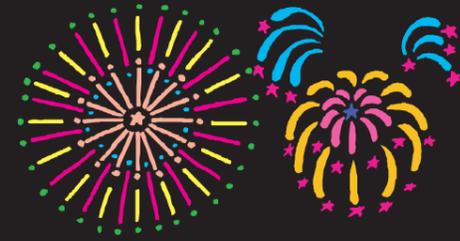


「花火の思い出」小澤順一郎

今や二十代半ばの長男が未就学児童だったころの話である。

花火大会と一緒にいった。人混みのなかを歩いていると後ろにくっついてはるの長男が前を歩いているではないか。どうも、前を行くGパンの親父を保護者と勘違いしているらしい。真の保護者はとっさに人混みに隠れ、長男の様子を観察することにした。長男はしばらくして、Gパン親父が他人であることに気づき、愕然とし、あわて、きょろきょろしたが真の保護者は発見できない。今にも泣き出しそうなその表情を確認してから保護者は「キミ、何してんの」と声をかけた。振り向いた顔にみるみる広がる安堵。長男が感じた保護者のありがたさがどれ程のものだったか、は聞いていないのでわからない。



青梅市の花火大会は、昭和23年に都営バス路線が青梅地域に開通したことを記念して始まったものです。夏の風物詩として毎年開催され、今年は第62回目です。今大会から、永山公園グランド内は全席有料となります。

問合せ先 青梅市観光協会事務局 0428 (24) 2481 abc@omekanko.gr.jp

第62回青梅市納涼花火大会

期 日：平成22年8月7日(土)
 荒天の場合は8日(日)に延期
 打上発数：3000発
 打上時間：午後7時30分～午後8時40分
 会 場：永山公園グランド

夏は花火、花火の思い出特集

「花火と私とわが家の犬と」田中春美

私の美家、神奈川県茅ヶ崎市の花火は、海の小さな島から打ち上げていた記憶がある。隅田川しかり水辺で打ち上げるものと思い込んでいた私にとって、永山グランドで打ち上げる青梅の花火大会には、正直驚いた。お陰で多摩川の対岸にあるわが家の周りは、知る人ぞ知る見物スポットらしく人が集り出す。

それなのに私といえば、ここ何年も締め切った家の中で、窓越しに見る程度だ。なぜか。うちの犬が原因である。

彼は、一日の八割五分を寝て暮らし、たまに家の中を走ると、畳の目に足をとられてコケてしまうほど、ワイルドさのかけらも無い。そんな彼の天敵は花火である。正確には、花火の「ドン」という地響きのような音が苦手なのだ。永山で花火が打ちあがると同時に、むやみにテンションを上げて吠える。「ドン」「ワン」の連続に、さすがの家族でさえ「何とかしてよ」という顔で私を見る。これで外でもいったら、白い目に晒されるのは必至だ。花火の日は家にこもるに限る。

今年の花火も、私は家で犬を抱き、「おりこうさんだね、静かにしようね」となだめてすかしてその時間を過ごすだろう。せめてのなぐさめに缶チューハイでも飲みながら。



「落下傘花火」中嶋捷恵

落下傘の出る花火の打ち上げは大抵、西の空に明るさが残る黄昏時である。気になるのは風の向きだ。中空に残された白煙の流れが風向きを教えてくれる。北よりだと万事休すだが、南や西からの風だと心が躍る。近所の仲間数人で手に手に2メートルほどの竹竿を構え、落下地点と思われ場所を目ざし山へ分け入るのである。辺りには目標を同じにする人たちが既に集まりはじめ、一様に空を仰いで「天からのプレゼント」を今か、今かと待ち焦がれている。見ると、中、高校生やおじさんが意外と多い。落下傘にあこがれる年齢はせいぜい小学生までだが、夕闇せまる山中だけに安全を慮り、弟や我が子に付き添って来たのだろう。

落下傘が飛んでこようものなら、早い者勝ち。長い竿を持って、沢を渡り、急斜面を這い上がり、あるいは駆け下りる。手の届くところでゲットなんて滅多にない。松ノ木にひっかかった落下傘が竿で突つきのめされ、無残な姿を曝わしたりしていた。

60年ほど前、ドーンとなった花火に、聴覚も視覚も、美的感覚も反応しなかった笑年(少年)時代のことである。



ちょっと歴史探訪

多摩川を筏が下っていた頃



青梅や奥多摩の木材は「青梅材」と呼ばれ、江戸の町屋建築に重要な役割を果たしてきた。その青梅材を江戸まで運んだのが、多摩川の筏(いかだ)流し。江戸から大正時代にかけての多摩川は大事な輸送路の役割も果たしていたのです。



かつての土場だった旧青梅六小下の河原

沢井で筏に組まれて下流へ

旧青梅第六小学校(現沢井市民センター)の校庭下の河原は、大きな岩が続く御岳とは一転、広く平らな砂地になっている。ここはかつて「土場(とば)」といって、筏を組んだ場所だった。

山から伐り出された木材は、上流から「管流(くだなが)し」といって1本ずつ流され、土場まで運ばれた。多摩川の上流は岩場が多く、流れが急で筏に組めないからだ。土場で組まれた筏は、筏乗りによって巧みに操られ、多摩川を下っていった。土場は沢井の河原だけでなく、大柳や千ヶ瀬の河原にもあったという。

粋でいなせな筏乗り

筏乗りは危険な仕事だったが、収入がよく、江戸の文化にも触れられるため、当時の若者たちのあこがれの職業だったとか。筏乗りは4日間かけて多摩川を下り、大森の六郷に到着。ここで青梅材は深川木場の材木問屋に引き渡されたそうだ。

多摩川の風物詩「筏流し」は大正末期まで続いたが、トラック輸送が始まって完全に姿を消した。今、多摩川には「筏」に代わって「カヌー」が浮かんでいる。



多摩川の筏流しを再現(昭和44年)＝青梅市郷土博物館提供

一番の難所は羽村堰

筏乗りが歌った「筏唄」に次のような唄がある。

きのう山下げ 今日青梅下げ
 明日は羽村の堰落し

「山下(さ)げ」とは上流の氷川のほうから管流しをすること、「青梅下げ」とは沢井で組んだ山筏を千ヶ瀬まで流すこと。千ヶ瀬で川下げ筏に組み直し、羽村の堰へ。ここが筏流しの一番の難所だった。江戸市民の飲料水確保のため、羽村に堰が作られ、玉川上水が引かれると、堰を守るために筏流しが厳しい制限を受けたからである。

筏が流せるのは1か月にわずか6日。それも1日たった1時間と制限されていたため、羽村の堰を下るのは一苦労だった。羽村堰近くの玉川水神社には上流の筏乗りたちが寄進した石灯笼が2つある。羽村堰を無事に越えられるようにと祈願して建てたものだという。



玉川水神社の石灯笼

算数・国語 頑張る【あなた】を応援します！
学研の先生募集中

□自分らしく生き活きと働きたい。
 □地域に貢献したり、人に喜ばれる仕事がしたい。
 □子どもが入園・入学するので働き方を変えたい。

・ 幼児・小学生の学習指導
 ・ 勤務地：自宅または貸会場
 ・ 毎週2回/15～18時位
 (曜日・時間は応相談)
 ・ 資格：短大卒業程度の学力

無料指導者説明会を開催中！
 詳しくはホームページやお電話でお問い合わせ下さい
<http://www.114154.com> *こども英語の先生も募集中

学研教室 立川事務局
 立川市柴崎町3-11-4 千代田生命ビル5F
 ☎ 0120-889-100 採用係

豊富な品揃えで良い品をより安く！

信頼と技術、安心のお店
真幸メガネ

小作駅東口 真幸メガネ 真鍋クリニック
 真鍋クリニック 小作駅

指定店 真鍋クリニック 真愛眼科 おしきり眼科

どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。心よりお待ちしております。
 羽村市小作台2-6-7 ☎ 042-579-1831 木曜定休

事業と暮らしの法律アドバイザー

会社設立、建設業、宅建業、運送業
 廃棄物の処理業、風俗営業、
 入国管理業務、各種許認可申請業務
 相続、成年後見、離婚、交通事故
 生活相談、手続き業務

栗原行政書士事務所
 入管取次 栗原節夫 TEL 042-539-0780
 行政書士 福生市福生891-12 E-mail: rxrbc164@ybb.ne.jp

会計で会社を強くする！

▶ 月次決算
 毎月訪問し経理事務を親切に指導・監査、月次決算書作成
 ▶ 相続
 相続に関する相談
 相続税の試算、遺言、贈与
 ▶ 電子申告
 税務申告も電子化時代！
 今後の対応が求められます
 ▶ 経営革新計画
 目標達成を支援、経営革新・黒字決算を支援します

TKCコンピュータ会計
小澤会計事務所
 税理士 小澤 英喜
 税理士 渋谷 貴子
 税理士 後藤 秀岐

青梅市師岡町2-36-1 TEL0428-22-7882 青梅の小澤会計 検索